

第 2 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

2 年 1 組 指 導 者 五 十 部 大 暁

単 元 目 的 に 合 わ せ て 読 む 「 お に ご っ こ 」

1 本単元で子供が働かせる各教科等の見方・考え方

言葉の意味に着目すること

2 本単元について

説明的な文章には、「文章の内容の大体を捉える」や「必要な情報を見付ける」といった読む目的に応じて重要となる言葉（語や文など）がある。このような言葉の意味に着目することが、目的を達成することにつながっていく。本学級の子供たちは、「たんぼぼのちえ」で「～のです」の意味に着目して文章の内容の大体を捉えたり、「どうぶつ園のじゅうい」で「やっ」とや「ようやく」の意味に着目して、筆者の思いを考えたりしてきた。こうした子供たちが、自己の学びと向き合い、言葉の意味に着目していたことに気付くことは、今後、言葉の意味に着目しながら、目的に応じて説明的な文章を読もうとすることにつながるであろう。

本単元は、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ学習である。本教材「おにごっこ」は、鬼ごっこの遊び方について書かれている文章である。この文章を読んだ子供たちは、自分の鬼ごっこの体験を想起し、書かれている内容に共感できた又は共感できなかった、といった感想をもつであろう。本単元では、共感の度合いを共有しやすくするために、共感点数（1～4点）を用いる。子供たちは共感点数を考えるために、説明に使われている「もっと」や「じょうずに」といった言葉の意味に着目するであろう。そこで、言葉の意味に着目した発言を見取った際、どの言葉に共感できた又は共感できなかったのかを全体に問い返す。そうすることで、言葉の意味に着目していたことに気付くことができるようになる。そして、子供たちは言葉の意味に着目しながら、感想をもつことができるようになるであろう。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子供の姿の実現を図る。

- 1 番目と 2 番目の鬼ごっこの説明に書かれている内容に対する共感点数について話し合う場面を設定する。そうすることで、言葉の意味に着目することができるようにする。
- 言葉の意味に着目した発言を見取った際、どの言葉に共感できた又は共感できなかったのかを全体に問い返す。そうすることで、言葉の意味に着目していたことに気付くことができるようにする。
- 単元後半に共感点数を考える際、単元前半で役に立ったことを問う。そうすることで、言葉の意味に着目しながら、共感点数を考えることができるようにする。

3 本単元の目標

- 言葉の意味に着目しながら、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができるようにする。
- 言葉の意味に着目しながら、目的に応じて説明的な文章を読もうとする態度を養う。

4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○事柄の順序の関係について理解している。	○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	○言葉の意味に着目しながら、目的に応じて説明的な文章を読もうとしている。

5 指導計画（全 7 時間）


第 1 次 文章の内容の大体を捉え、学習の見通しについて話し合う（2 時間）

第 2 次 文章の内容に対する共感点数について話し合う（5 時間）【本時 3 / 5】

6 本時案 【令和4年11月25日 10:00~10:45 2年1組教室】

(1) ねらい 3番目の鬼ごっこの説明に書かれている内容に対する共感点数について話し合うことをとおして、言葉の意味に着目しながら、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができるようにする。

(2) 学習過程 ※下線は支援に対応する子供の意識

学習活動・学習内容	子供の意識	○教師の支援
<p>1 3番目の鬼ごっこの説明に書かれている内容に対する共感点数について話し合う。(40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味に着目すること 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと 結び付ける体験によって感想が異なること <p>2 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の場面でも、言葉の意味に着目しようとする意欲 	<p>・休み時間にみんなで増え鬼をしたことを思い出して「分かる点数」を考えるぞ。</p> <p>増え鬼の説明の「分かる点数」は何点だろう。</p> <p>・前の時間に「分かる点数」を考えたときのように、言葉の意味に気を付けて読もう。</p> <p>A ぼくは2点かな。増え鬼も面白かったけれど、「もっと」とまでは思わなかったよ。</p> <div data-bbox="539 745 1098 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どの言葉が気になるの だろうね。</p>  </div> <p>・「もっと」かな。確かに面白かったけれど、「もっと」ほどではなかったな。</p> <p>B 私は3点だよ。Aくんとは逆で、逃げるときにどきどきしてとても面白くて、「もっと」面白くなったと思ったからだよ。</p> <p>・同じ言葉でも、増え鬼のときの体験によって「分かる点数」が変わるのだね。</p> <p>・森下さんも増え鬼をしたときに、とても面白いと思ったから、「もっと」を説明に使ったのかもしれないね。</p> <p>・私は2点かな。「じょうずに走ったり」がよく分からなかったからだよ。</p> <p>・確かに。「じょうずに」の意味は分かるけれど、「じょうずに走」となると、どんな走り方なのか分からなくなるな。</p> <p>C 私は4点だよ。逃げる人を簡単に捕まえることができ「つかまえやすく」というところがよく分かったからだよ。</p> <p>A 確かに「つかまえやす」かったね。よし、増え鬼の「分かる点数」は3点にしよう。</p> <p>・増え鬼の体験を思い出しながら考えたよ。</p> <p>・「もっと」や「じょうずに」などの意味に気を付けて点数を考えることができたね。</p> <p>A <u>言葉の意味に気を付けられるようになってきたよ。次は、言葉の意味にもっと気を付けて、手つなぎ鬼の説明の「分かる点数」を考えるぞ。</u></p>	<p>○1番目と2番目の鬼ごっこの説明に書かれている内容に対する共感点数を考える際に、役に立ったことを問う。そうすることで、言葉の意味に着目しながら、共感点数を考えることができるようにする。</p> <p>○言葉の意味に着目した発言を見取った際、どの言葉に共感できた又は共感できなかったのかを全体に問い返す。そうすることで、言葉の意味に着目していたことに気付くことができるようにする。</p> <p>○振り返りの際、言葉の意味への着目を視点に振り返るよう促す。そうすることで、他の場面でも、言葉の意味に着目しようとするができるようになる。</p>